

1. 本報告書のねらい

ねらい1: ボランティア活動の場の開拓に資する

ボランティアコーディネーターの仕事は、活動希望者・ボランティア依頼者に活動を紹介することに主眼があり、活動がスムーズに開始するように事前の様々な調整を行うことが主な役割である。

このため、市民の活動意欲を引き出す、ボランティア活動の場を開拓する、活動意欲のある市民を具体的な活動の場につなげる、ボランティア希望者およびボランティア活動の受け入れ側（個人、組織）にとって有益な活動の成立を支援する、の4点が、ボランティアコーディネーターの業務のポイントとなる¹。

この4つのポイントは、各々が重要なテーマであり、それぞれにノウハウ習得のための機会が必要となる。本調査研究では、この4ポイントのうち、ボランティア活動の場を開拓することに資することを主な目的としている。

ねらい2: ボランティア活動の場の多様化に資する

ボランティア活動の場の提供は、地域のボランティア団体やNPO（Non Profit Organizatin、民間非営利組織）、社会福祉施設、行政、企業、個人など様々な主体によってなされる。もちろん、ボランティアコーディネーター自身が活動プログラムを開発していくこともある。

これらの活動プログラムを開発する主体のなかで、特に、ボランティア団体やNPOは、地域の様々な課題やニーズに対応した活動を展開しており、人々の身近なところにおいて、気軽に参加できる多様な活動機会を提供する役割が期待される。

そこで、本報告書では、ボランティア団体やNPOに焦点をあて、それらが、どのような活動上・組織運営上の工夫を行い、課題を抱えているのかを分析する。この分析結果を、市町村レベルの奉仕活動・体験活動支援センター事業のボランティアコーディネーターの視点から整理し、支援センターが、地域のボランティア活動機会の多様化の観点からボランティア団体やNPOへの支援をどのように行っていくかの実践的ノウハウをまとめる。

¹ 全国社会福祉協議会「ボランティアコーディネイト論」（2001年10月）P81より要約

ねらい3:学校教育での体験活動を深める機会づくりに資する

学校教育における体験学習へのボランティア活動の機会の提供はもとより、その後、児童・生徒が、体験した活動を継続して行いたい、あるいは、さらに活動内容を深めていきたいという希望をもった場合に、そのための活動機会を紹介したり、相談にのったりすることも、支援センターの役割として期待される。また、カリキュラムの動向を把握し、体験学習に資するボランティア活動の機会を教員に提案することも考えられる。このような活動を通じて地域の教育力と学校との間の橋渡しを行っている実践事例を紹介する。